

魔神の呪

(大正六年寮歌)

佐藤惣之助君 作歌

植村泰二君 作曲

一

魔神まじんの呪のろいアルペンの
白雪はくせつ永久とほに清きよからず
見みよ永劫えいこくと誓ちかひけん
平和へいわの春はるは短みじくて
吹ふく凋落ちようらくの秋風あきかぜに
正義せいぎの光影ひかりかげくらし

二

されど儼然げんぜん東洋とうように
その義ぎと俠きやうを胸むねにして
燦さんたる北斗ほくと北陲ほくすいの
強きやうと仰あおがれ誇こりつづ
自治じちを精神いのちの我寮わがきやうは
映華えいけしある歴史し十二年じゅうにねん

三

嗚呼ああ北海ほつかいの荒吹雪あらふぶき
白箭はくせん膚はだを撃つくも
胸むねの狂瀾きやうらん青春せいしゆんの
血潮ちしおに如何いかで比ひすべきぞ
力ちからの緒琴おごと高鳴たかなりて
紅くれな燃いゆる悶もだえあり

四

残陽ざんよう西にしに茜あかねして
今日きようも暮くれ行く手稲山ていねやま
雲くもの五彩ごさいを眺ながめては
思おもひは遠とほく渺茫べうぼうの
彼かの海うみを越こえ山やまを越こえ
雄図ゆうと千里せんりぞ駈はしりゆく

五

平和へいわの流れなが豊平とよひらの
狭霧さきり罩あさめたる朝あさぼらけ
東ひがし指さして流れ行く
淙々そうそうの音おとを我聴われきげば
瀬々せせの河波かはなみ声こえあげて
唄うたふ「自由じゆう」の二字にじの曲きよく

六

今宵こよい榆影ゆえいに団欒だんらんして
月影つきかげに酌しやくむ自治じちの宴えん
廻めぐる盃さかすき夜よも更ふけて
北斗ほくと傾かたく玻璃はりの窓まど
いざ吾わが友ともよ熟睡うまいせむ
明日あすは人生じんせいの旅たびなれば